

青年農業者交流会報告

- 1, 10/21 (木) 14:00～、青年農業者交流会が zoom を使用したオンライン形式で行われました。合計 54 名の参加があり、生産者 21 産地 38 名、他連合会職員・消費者幹事が参加しました。
- 2, 倉林永関東・中部ブロック副ブロック長の進行により、開会挨拶として大津代表幹事より「コロナ禍で元気な生産者とそうでない生産者に分かれてきている。今日の青年農業者交流会をきっかけに、若い生産者自らがチャレンジすることを目指してほしい」と挨拶されました。また、趣旨説明として坂入清史生産者幹事より「コロナ禍で農業現場の不安要素は多いが、そのことも含めて情報発信を産地としてどのようにしていくかを学ぶ機会としたい」と話されました。
- 3, 今回は、「産直産地は何を情報発信すればよいのか?」と題し、パルシステム・リレーシオンズ藤井将氏よりお話いただきました。産直通信を含めた媒体への組合員から要望として挙げられていることとして、「わかりやすい内容だけでないもっと踏み込んだ深い情報」について解説がありました。パルシステムには「クセスゴ」(印象的)な生産者が多いことから、その特徴を生かした生産者の人となりが見えるような情報の伝え方について、提案がありました。パワーポイントと動画を織り交ぜたり、特別ゲストとして大牧農場五十川賢治幹事のご息子が登場するなどの演出もあり、わかりやすく学びました。
- 4, その後は7つのグループに分かれグループディスカッションを行い、終了後に各グループから報告されました。今後の交流については、オンラインとリアルを使い分けた交流を検討したい、各産地で農業現場の動画や画像を撮りためておく、オンラインであっても青年農業者交流会のような場で交流できることは楽しい、組合員と生産者が支え合う関係を築いていきたい、などについて共有されました。
- 5, 最後に、小川保副代表幹事より閉会挨拶として「藤井さんのプレゼンが大変良かった。直接会えない中ではあるが、オンラインでも産地同士の情報交換や交流を行ってほしい」と述べられ、弊会となりました。

